

山田みやこの活動報告

平成30年8月20日(月)

ミツバチの生態系について

養蜂業者からの聞き取り

ミツバチは花粉を媒介し農業生産にとって重要な役割を担う。しかし2000年代以降、群れが崩壊する異変が相次いでいる。今回、養蜂業者の話を聞きに伺った。

この10年間、イチゴ・梨・メロン・スイカ・リンゴ・なす等の農家にミツバチを貸出すと、戻るときには8割減の2割しかミツバチは戻ってこない。戻ったミツバチの1割しか次のシーズンには使えない。

そのため貸出するミツバチと、来年のために繁殖するミツバチを分けて飼育している。

戻るミツバチが少ないため、繁殖専門に県外(北海道・長野・岐阜・九州・沖縄)から仕入れする。

ミツバチ失踪(減少)の原因の一因と言われているのはネオニコチノイド系農薬だが、商品名から判断しにくい現状である。

また、農薬の空中散布時に米農家と養蜂業者が連携し、ミツバチを一時避難させることは不可能だという。非常に深刻な状況と言える。

ミツバチがいなくなれば、多くの果物や野菜も育たなくなる。乳牛のエサの大半は、ミツバチによる受粉を必要とする干し草。その結果、牛乳やバター、チーズなどの乳製品も生産量が減少し、価格が高騰し、入手困難になる恐れがある。

また、綿もミツバチの受粉によって採れるもの。コットン生地の衣類にも影響するため食物だけにとどまらない。